ICIC News

International Cartographic Information Center News

Vol.19 No.2 通巻70号 2014年8月1日発行

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-5 神保町センタービル5階
Tel.03-3262-1486 Fax.03-3234-0872 E-mail edit@chizujoho.jpn.org

編集・発行　一般財団法人地図情報センター

秋のセミナー決定! 9月13日(土)
講師2名による内容充実の講演です

平成26年第1回地図セミナーが開催されます。今回は講師2名による充実の内容です。

会　場：**埼玉県立文書館**
（さいたま市浦和区高砂4-3-18）

日　時：**平成26年9月13日（土）10時～**

講演①「明治初期の隠された一つの地図作成史」

時　間：10時～12時

講　師：**井田浩三氏**

第8回日本地図学会論文賞『鷹見泉石「新訳和蘭国全図」原図の考察』を受賞した井田浩三氏の講演です。今回は清国への派遣将校によるルートマップ（線のネットワーク）作製から面の地図への展開と、欧米人による日本でのルートマップ作製を比較しながら、これらの初期作成図がどのように作られ、利用され、発展していったか、について未公開の図の紹介を含め解説します。

講演②「鳥瞰図絵師・黒澤達矢の原画から見る鳥瞰図の世界」

時　間：13時30分～14時30分

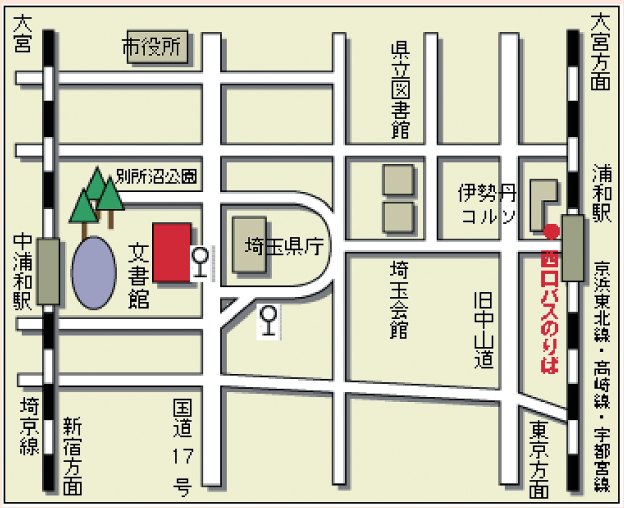
講　師：**黒澤達矢氏**

埼玉県立文書館で開催されている黒澤達矢氏の鳥瞰図展（7月15日～9月14日、下記展覧会情報）。作品や制作過程を作者からお話しいただける絶好の機会です。精密かつダイナミックな鳥瞰図をご堪能下さい。

参加費：500円（資料代）

定　員：20名（会員以外の方も参加できます）

人数確認のため参加ご希望の方は9月9日まで地図情報センターまでご連絡下さい。ホームページ（http://chizujoho.jpn.org）からも参加申込ができますのでご利用下さい。受付後、参加票（ハガキ）をお送りします。



展覧会情報

鉄道と地図と地域変容
会　場　奈良大学博物館
電　話　0742-44-1251
期　間　5月24日～8月29日

鳥瞰図絵師・黒澤達矢の原画から見る 鳥瞰図の世界
会　場　埼玉県立文書館
電　話　048-865-0112
期　間　7月15日～9月14日

NIPPONパノラマ大紀行　吉田初三郎の描いた大正・昭和
会　場　名古屋市美術館
電　話　052-353-2655
期　間　7月26日～9月15日

伊能図の世界ー館蔵品一挙大公開ー
会　場　神戸市立博物館
電　話　078-391-0035
期　間　8月23日～9月15日

ナショナル ジオグラフィック展
会　場　高崎市美術館
電　話　027-324-6125
期　間　7月6日～9月30日

日本の観光・レジャー　コレクション1 ー 戦前編 ー
会　場　ゼンリン地図の資料館（北九州市）
電　話　093-592-9082
期　間　7月22日～9月30日

特別展・私の博物館「地図・絵はがき・観光ガイドで見る あの日の釧路・阿寒」
会　場　釧路市立博物館
電　話　0154-41-5809
期　間　7月26日～10月5日

江戸の風景ー町絵図を中心に
会　場　千秋文庫
電　話　03-3261-0075
期　間　9月9日～12月6日

地　図　絡　み

第58回 出会えない図

帝京大学理事　井口悦男

地形図大好きと言う人たちの、図の集めかたは、いろいろである。通常、初版から順に揃えていくが、全部が集まるとは限らない。また、縮尺を異にする発行年度を網羅することも、蒐集家の理想であったとして、その達成は、頭の中で可能で、実際には困難事である。そのようになりがちなので、地図好きはお目にかかりにくい図の存在に、少なからぬ情熱を燃やす。それも密かに。

ところが、そうであればあるほど、なぜかお目に掛からないものである。それも同好の士がそれを承知なのに、気に掛ける思いそれ程を要することなく、入手しているにもかかわらずと言ってよい。

発行年度の前後での間隔が通常のばあいと異なり、より短い間で、次の修正図が刊行されることから生じる現象である。先行図数が一般例より少ないことによる。前後で近接発行という例外的状況にもとずく。

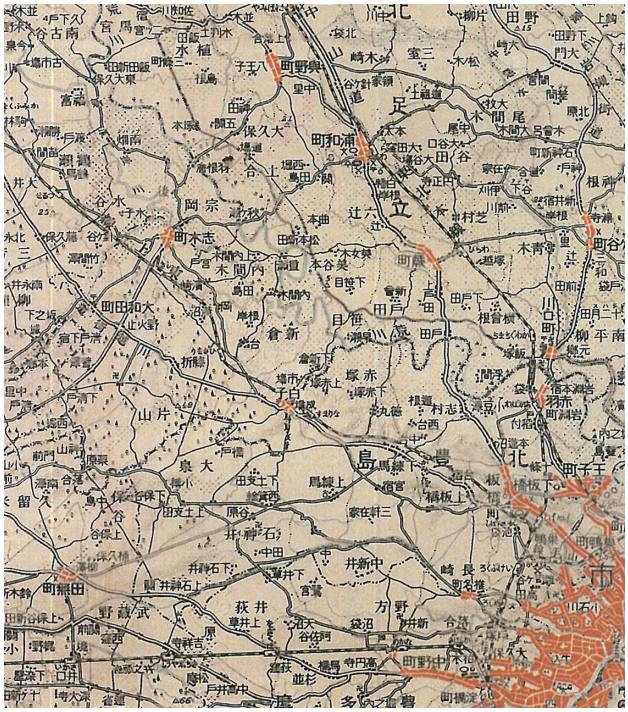
「東京」20万分1輯製図は、明治19年版以来、何度か修正を重ね、そして大正3年には一段と精緻な、かつ色刷の帝国図に改版、図描向上を遂げる。この年、池袋・川越間、その一駅先、船車連絡点の田面沢（小川町方面延長時廃止）までの東上鉄道（現、東武東上線）が開業する。この線の描入が、大正3年版を作成させたと言ってよい。

ところが、その翌大正4年、続くように東上鉄道にほぼ平行して、同様に武蔵野台地上に、池袋・飯能間に所沢を経由し、武蔵野鉄道（現、西武池袋線）が開業する。これに合わせて大正5年第1回修正版が発行された。新線の開通が修正版の成立となるべく直結させる基準が存在したわけではなかったが、東京という首都周辺での交通事情の改良を大きく扱い、図の部分的改修に踏切った。通常は少なくとも、数年以上経過して、改正版の刊行となる所を、多分特例含みで修正版の発行を実施した。このため記念すべき帝国図色刷初版図は、東京周辺の交通線の現状に合致させる、図の案内性上の理由が優先されて、帝国図第１回修正版があたかも初版の役目を果たす形となった。

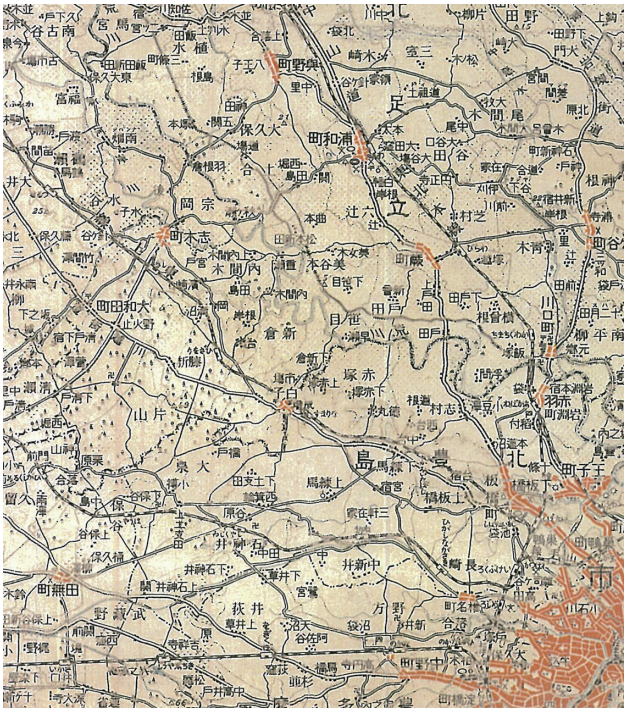
古地図入りした段階で、大正3年初版の印刷図数は大正5年修正版の存在から見て、通常版に比べ圧倒的に少数でしかなかったとなる。

発行年度、地域、バラバラに折畳まれた古地図の集積の山に順番にあたって、掘り出しものを期待して、崩していっても、先ず目新らしい図に触れることはないに近い。期待しても無駄の山に何度くり返したか。そのようなある日、図を崩しているなかで、帝国図初版特有の色刷色、黄色味勝ちな色彩に心躍せると、「東京」という20万分1とあるではないか。少々折り目が切れた状態なのは残念ながら、待ちに待った帝国図大正3年版「東京」である。初版図で揃えた図群に接したのではなくて、新旧寄せ集め図群から、それこそ執念というか、縁あって拾い上げたのである。万葉集だかに「ワレヤスミコ得たり」と喜びを唱いあげるのに等しい。もちろん「東京」以外にも、僅かの年数で更新されたため、出会いにくい図が少ないが見られる。

（14.7.7）



なかなか出会えない20万分1「東京」大正3年初版帝国図（約77%に縮小）



代わりに出会いやすい20万分1「東京」大正5年第1回修正帝国図（約77%に縮小）